



人間、金があるからって、決して幸せとは言えないよ。(車寅次郎)

#男はつらいよ 寅次郎恋やつれ



profile
山本純ノ介 1958年、東京都生まれ。作曲家・山本直純の長男。東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程作曲専攻を修了、現在は千葉大学教授、東京芸術大学音楽部非常勤講師。第47作『男はつらいよ 拜啓寅次郎様』から父・直純と音楽を共同で担当している。

息子・山本純ノ介が語る 父と寅さんの音楽

最新作『男はつらいよ お帰り寅さん』での新曲は、息子の山本純ノ介が担当している。父・直純と寅さんの音楽について語っていただいた。

最新作は感動で涙が止まらなかった

小学生の頃から、盆と正月に家族で寅さんの映画を見に行くのが恒例となっていました。映画のあと、家族で劇伴について議論することが多かったですね。また、父が持つて帰ってきた台本をこっそり読んで「おもしろいなあ」なんて思っていました。

私が芸大に入った昭和52年の夏頃、映画の会議に父の台本を持って出席しました。そこで山田監督に声をかけていただき、スタッフの端くれとして少しずつ作品に携わるようになったんです。第38作『男はつらいよ 知床慕情』で、順吉(三船敏郎)が野原でくつろいでいる場面にパロック調の音楽を書いたんですが、父と監督が気に入ってくれて採用されました。初めて自分が役に立ったと思えましたね。

父は監督の考えを理解してサツと新しい曲を出すところとか、予め2〜3曲作っておいて、ダメなら次、というのが得意でした。それでもちょっと危ないな、と思うと私に「何か書いてみる」と言ってくれてもらって、それが採用されることもあり、それが採用されることもありました。最新作では、私は満男(吉岡秀隆)らが中年世代になったところの音楽を書き、デモの段階で監督に聴いていただきました。最後の1曲に至るまで綿密に聴いてくださりました。監督の音楽に対する強い思いを感じましたね。『男はつらいよ』は弦楽器がメインですが、管楽器が多いものもあります。最新作ではピアノが活躍しています。聴き比べてみるとおもしろいと思いますよ。



「男はつらいよ サウンドトラック・ベスト」リリース!

「男はつらいよ サウンドトラック・ベスト」が、SHOCHIKU RECORDSより7月31日に発売決定!寅さんの旅路、マドンナたちとの恋模様、そして柴又の人々に寄り添う音楽の数々。シリーズ全49作から名場面の音楽、映画用録音版主題歌を、CD初収録音源も含めて全60曲厳選収録した寅さんの音楽世界。最新作公開を記念したベスト盤です。山本直純による叙情あふれる音楽の数々をお楽しみください。

「男はつらいよ サウンドトラック・ベスト」
音楽:山本直純 発売日:2019年7月31日 価格:2,700円+税 発売:SHOCHIKU RECORDS
販売:Sony Music Solutions 商品番号:SOST-3030



ひらめきと感情で名曲を生んだ 作曲家・山本直純の才能。

『男はつらいよ』の音楽は、誰がどのように作り上げていったのか。そこには作曲、指揮、タレントなど多岐にわたる活動をしていた名作曲家の姿があった。

テキスト・インタビュー:志水照臣

『男はつらいよ』といえば、冒頭で流れるテーマソングを思い出す人も多いだろう。この曲をつくり、長きにわたって音楽を担当してきたのが、作曲家の山本直純だ。同世代の指揮者・小澤征爾や岩城宏之らとも深い親交があり、クラシックからテレビ、映画、ラジオの音楽まで幅広く活躍した名作曲家である。手がけた楽曲には、森永製菓・エールチョコレットのCMソング、童謡「一年生になったら」、テレビ特撮『マグマ大使』『怪奇大作戦』の音楽、音楽番組『ミュージックフェア』のテーマソングなどがある。

そんな直純は、テレビドラマ版『男はつらいよ』の音楽を担当することになった。このテレビドラマ版を企画した小林俊二プロデューサーが、主題歌の作詞を演歌・歌謡曲の星野哲郎、作曲をクラシック音楽の山本直純という異色の組み合わせで依頼したのだ。制作期間が短い上、忙しかった直純は短時間で集中してテーマソングをつくった。こうして完成したのが、渾身が清々歌う『男はつらいよ』である。

この楽曲で特に印象的なのは、イントロと寅さんの前口上だ。イントロでは流れる風のような旋律、そして寅さんお得意の名調子、歌のメロディには日本人になじみ深い音階を使うことで、「風来坊な寅さん」を音楽で見事に表現。そこには、クラシック音楽の理論に裏打ちされた直純のほとぼしる感性があった。山田洋次監督も「フィルムを見ながら、スーツとあの人の中に音楽が浮かんでくるんじゃないのかな。それが素晴らしいんだよね。理屈で考えるんじゃないんだ、あの人は」と語っているほど。

最新作『男はつらいよ50 お帰り寅さん』では、直純の楽曲に加えて作曲は長男の純ノ介、指揮は次男の祐ノ介が担当している。直純が残した名曲の数々は、彼の息子たちが確実に受け継ぎ、新たな実を結んでいるのだ。

profile
山本直純 1932年、東京生まれ。父・山本直忠、作曲家・渡辺浦人らに師事し、東京芸術大学在籍中より作曲活動を開始。テレビ番組『オーケストラがやってきた』などで音楽監督を務め、クラシック音楽の普及に貢献した。テレビドラマ『男はつらいよ』を皮切りに、映画シリーズすべての音楽を担当した(一部、息子・純ノ介と共作)。2002年没。



さう、心で歌え、心で。(車寅次郎)

#男はつらいよ 翔んでる寅次郎